蒸繭方法告諭書

8420
147
群馬県立文書館

府縣

別紙ノ通製絲蒸繭ノ方法告諭書相渡候条各府縣管内ヘ領布可致候此段相達候事

明治六年五月

大藏省事務総裁
正四位大隈參議

夫き生糸ハ御國産の第一にして其利潤も世に
普く知る所なり然るに近年製し方麁抹に流き
隨て品位相劣り竟に名品の聲價を失ひ國家の
洪利を減損し商賈或ハ破産に至るハ豈既歎に
堪えざるんや因て其業に從事するの為に今
政府既に外國製の器械を購入し上州富岡に製
糸場を建築し佛人ブリユナ氏始め外國人男女
數名を雇入き其教授を受け製糸試驗せしに

良好の糸を製造せり其繰糸法最緊要なる所
を蒸繭の良法にあり古ハ從来御國内にハ
繭を大陽に晒し其暖氣を以て乾し殺せハ
是特にブラン糸口の性を変じ其光澤を失ふの
ミ暖度不足なる故以て蛹速に死せざ
て蛾或ハ蛆の化出する患尠し今歐邏巴の
機械を用ゆるに於ハ斯の如き不便なし
晴雨に拘らず多數の繭を一度に蒸殺せ事を

得ちき其方法容易ふしく其功用大なるものと謂
べし依て其方法概略を左に示せ夫き繭ハ總て
新鮮なるを撰び即ち然を吐き始むる日より十日を経て之を
経て数日光に晒らするものを之を
屋根ある場所に入き置き細密小點檢し量目を
掛け先づ大ひなる釜に熱湯を沸し側に圖の如
き戸棚様の大ひなる箱第一成丈氣の通ずる
緻密に製造せしを置
其中に棚を十段設け籃二十を載せ一籃に容る
繭の繭五升合せて一石なりとす箱の戸を密閉

し箱の底并に釜の蓋に小孔を穿ち竹筒を曲折し
て箱と通し以て沸騰の蒸氣を箱の中に入き
孔の上へ図のごとき笠様のものを覆ひ蒸氣を
受き其水氣を滴下せしめ熱氣を留めて繭を
蒸し蛹死するを度とす蒸し加減ふり中上下籃を
替るもよろし
此熱度大略百四十度なり然る後蒸籃を取出し
繭を入れ重ねて置き布團或ハブランケ
ットの類を覆ひ暖時湿氣を取り風氣快通する

所ふ置き速くに乾を要を示後季秋に至るまぐ
日々攪散し死蛹腐敗してに繭と損ずるを防ぐべし
因て器械の畧図を添へて製糸家の為に其大概
を述ぶ尚詳知せんと欲するもの富岡製糸場に就
て実地経験すべし依て告諭に如ふるもの也